

南房総の生徒指導

南房総教育事務所
生徒指導班
平成31年3月

「生徒指導の機能」を生かした学び・授業づくり！

～「主体的・対話的で深い学び」を実現するための基盤として～

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、その基盤として、教職員と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の人間関係が良好であることが重要です。

そのためには、「生徒指導の機能」を意識し、充実を図っていくことが求められます。「生徒指導の機能」を生かした学び・授業づくりをすすめましょう。



生徒指導の機能とは？

生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めていく教育活動を通して、「自己指導能力を育成する」ことです。そのためには、「①自己決定の場を与える ②自己存在感を与える ③共感的人間関係を育成する」ことの3点を特に留意する必要があります。これが生徒指導の機能です。（平成22年文部科学省「生徒指導提要」より）

自己決定の場を与える

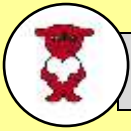
子供が自分で考え、判断して、決めて実行できる場面を意図的に設定します。このことが、子供の「自分のことは主体的に自分で決めて実行しているんだ。」という気持ち（自己決定感）を育てることにつながります。

自己存在感を与える

一人一人をかけがえのない存在として捉え、その個別性や独自性を大切にします。このことが、子供の「やればできるんだ。」という気持ち（有能感）を育てることにつながります。

共感的人間関係を育成する

子供をありのままに受け止めます。このことが、子供の「自分は周りの人から受け入れられているんだ。」という気持ち（他者受容感）を育てることにつながります。

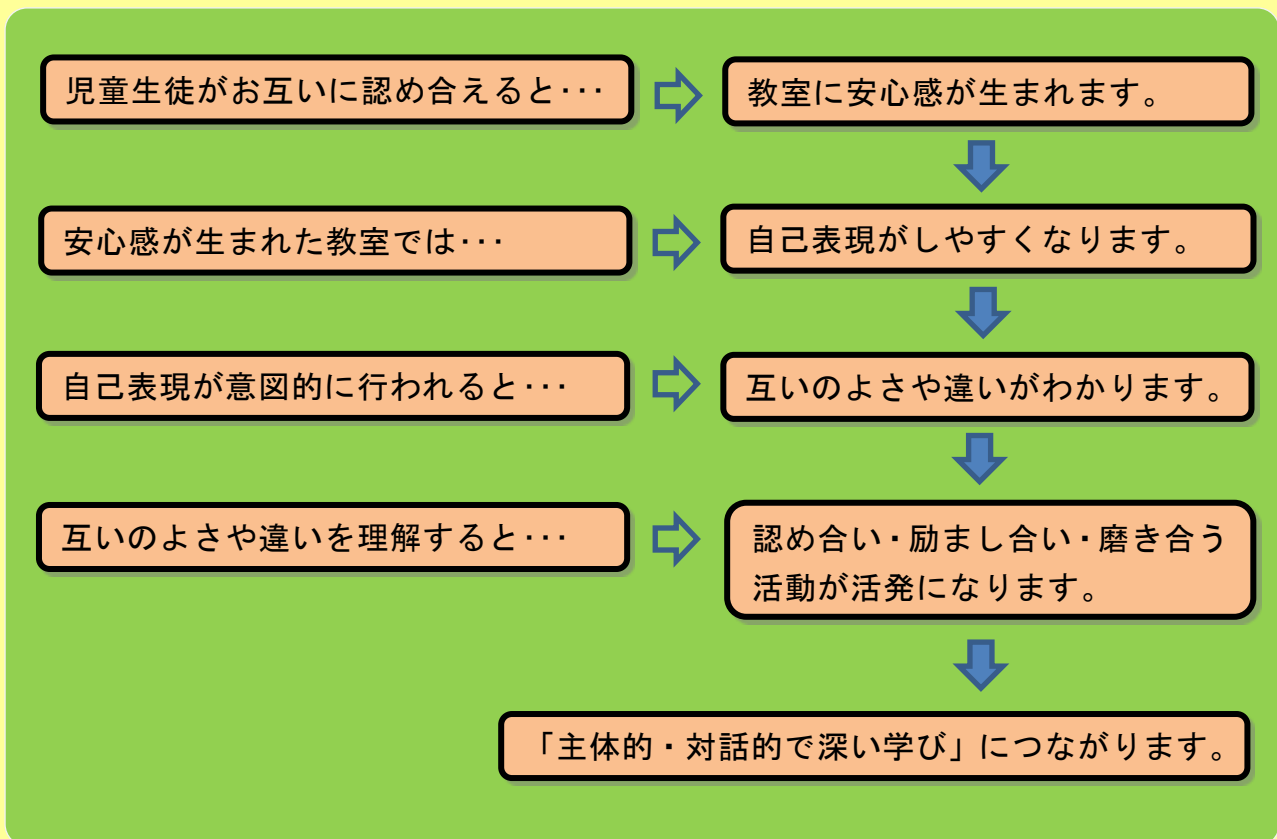


主体的な学習を支える基盤づくり～三機能を生かして～

◎「認める」から「認め合い、励まし合い、磨き合い」へ

日本の子供は世界の子供と比べて、自己肯定感が低いと言われてい
ます。先生方は大人の基準や水準で叱咤激励することに終始していき
ませんか。たとえ成果が現れていなくても、こだわりをもって努力したり工
夫したりしたことは認めることが大切です。

子供同士がお互いに認め合い（共感的人間関係）、一人一人をかけがえ
のない存在として大切にし（自己存在感）、自分で考え、判断して行動す
る（自己決定）ことができると、主体的に学びに向かい、対話的な学び
が充実し、深い学びを生む学習集団となります。



教師と子供の信頼関係と自己肯定感の高まりを基盤として、子供たちが主体となって活動できるように、教師が場や機会を準備する必要があります。教師が適切に関わり、必要なルールづくりなどの支援をしていくことが学級・学習集団づくりには不可欠です。

*福島県教育庁県北教育事務所（平成30年）「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」より引用（部分変更）



授業に生徒指導の機能を生かす～場の設定と手だて～

具体的な手立てチェックリスト

機能	No.	具体的な手立て
自己決定の場を与える	1	興味・関心を持つように、資料や教材提示を工夫する
	2	思考場面や観察場面で、考えたり、観たりする視点を示す
	3	主体的に学べるよう、個に応じた支援を行う
	4	一人で調べたり、考えたりする時間を十分に与える
	5	自分の考えをみんなの前で発表する場を設ける
	6	教育機器の活用を図ったり、多様な教材、教具、資料を準備したりする
	7	今日の学習を振り返り、これからの学習を考えるような場を設定する
	8	自分の考えや思考過程がわかるようなノートの取り方を指導する
	9	多様な考えを生むような発問を工夫する
自己存在感を与える	10	どんな発言や考えも受け止めて大切にす
	11	つぶやきを積極的に取り上げて、発表のチャンスを与える
	12	協力して学習できるように、多様な学習形態を取り入れる
	13	授業に参加しているという気持ちが持てるように、発問などを工夫する
	14	授業に意欲を見せない子供や学業が振るわない子供も、学習していけるような配慮をする
	15	授業の中で、「よくできたね」「がんばってるね」等の、承認や称賛、励ましをする
	16	実態を把握し、授業のどの場面でどの子供を生かすか、見通しを持って指導する
	17	多様な考えを提示して、お互いの考えに気づかせる工夫をする
	18	発言しない子供に配慮する
共感的人間関係を育成する	19	たどたどしい発言でも言い終わるまで待ったり、的外れの考えや意見のように思われても、熱心に聴いたりするようにする
	20	間違っただけを笑わないように指導する
	21	一人一人を受け入れてほめ、子供の人間性を認める
	22	友達の意見にうなずいたり、拍手したり、反応を返すように促す
	23	相互評価を取り入れ、お互いのよさを認め合うようにする
	24	教師主導にならず、子供のテンポに合わせてながら授業を進める
	25	発言をつなげて、集団での学び合いとなるようにする

学習環境づくり、授業規律の徹底等も大切です。以下一例です。

■ **授業時間を守りましょう！**

チャイムと同時に授業をはじめ、チャイムと同時に授業を終えていますか。

■ **学習にふさわしい教室環境を整備しましょう。**

黒板（面・溝・チョーク）はきれいになっていますか。

黒板下はきれいになっていますか。

給食の食べこぼしやごみは残っていませんか。

ロッカーの中は美しく整理整頓されていますか。

掲示物は時季にあったものが掲示されていますか。

机の列は前後左右が揃っていますか。

机の中は整理されていますか。

■ **授業のルールを確立しましょう。**

発表の仕方や話の聞き方のルールはありますか。

授業中の姿勢を意識させていますか。

私語に関してきちんと指導をしていますか。

良い態度はほめ、好ましくない態度は正すように指導していますか。

鉛筆の持ち方や下敷きの使用について意識して指導していますか。

学習環境づくりや授業規律の徹底等の際にも、子供たちに判断する機会を与えたり、子供たちの決めたことを大切にしたり、主体的な活動を温かく見守るなど、子供と一緒に作り上げていくという教師の姿勢が大切です。

oo

【参考文献】

- ① 文部科学省（平成22年）『生徒指導提要』（教育図書）
- ② 岩手県立総合教育センター（平成19年）『授業における生徒指導』
- ③ 広島県立教育センター（平成23年）『自ら学ぶ意欲を育む生徒指導の在り方に関する研究』
- ④ 埼玉県立総合教育センター（平成25年）『生徒指導の機能を生かす授業改善の手引き』
- ⑤ 香川県教育センター（平成29年）『主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり』
- ⑥ 福島県教育庁県北教育事務所（平成30年）『主体的・対話的で深い学びの実現に向けて』